

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400161		
法人名	社会福祉法人神門福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームかんの里(なごみユニット)		
所在地	島根県出雲市神門町13番地5		
自己評価作成日	令和4年3月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和4年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基に、利用者の方の性格や生活環境を把握し、その人らしく居心地の良い場所であるようにと常に心掛けている。日常生活の中で、自分らしさを保つよう過度な介助はせず、出来ない事はお手伝いする姿勢で接するよう努めている。また、家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるよう、その時々の行事を生活に取り入れてたり、煙で採れた野菜を食事に使用するなどしている。レクリエーションでは、壁画作りやちぎり紙、塗り絵や体操を行い脳の機能に刺激を与える働きかけも日々の生活の中に取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームかんの里は地域密着介護老人福祉施設と小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。令和2年4月に1ユニット「きずなユニット」が増床されました。管理者、職員は基本理念「尊厳」「家庭的な雰囲気」「安心」「絆」の基、職員は認知症の利用者がその人らしく居心地の良い場所であるようにと常に心掛け支援されています。職員は誇りやプライバシーを損ねない丁寧な言葉掛けで対応され利用者は安心されています。リビングにはソファが置かれゆっくりと過ごせるような空間作りをされ落ち着いた雰囲気ですぐす事ができます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域、生活により近い環境の中でゆったりと日々を過ごして頂けるよう理念に基づいてサービスを行っている。又、事務所内の目のつく所に理念が貼ってありいつでも見れるようにしている。	基本理念として「尊厳」「家庭的な雰囲気」「自立支援」「絆」を掲げ、理念に沿ったケアを目指しておられます。理念に沿った月目標も作成され振り返りを行いながら実践されています。基本理念・目標は事業所内に掲示し意識付けが行なわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナウイルスの影響の為、交流は難しいが挨拶をしたり、地域の行事に作品を展示という形で参加している。	コロナ対策の為、地域との交流も難しい状況ですが、系列の保育園とは行事の時のビデオレターや手作り作品を通して交流が図れています。また、地域の行事に作品展示をされ交流の継続を行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナウイルスの影響の為地域の方に向けての実践は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナウイルスの影響の為実施できていない。	コロナ流行じにはコロナ対策の為、書面報告(利用者状況、活動状況、会議、研修、避難訓練、意見募集)とし、運営推進会議のメンバーに送付されました。コロナが終息した際には、リアル開催される予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の中ではあるが、介護相談員の方には定期的に訪問を受け都度、状況の報告や利用者との関わりを持って頂いている。又、介護相談員の方にはその日の気付き等を報告して頂いている。	市担当者やコロナ対策や利用者状況、サービスの取り組み等電話で連携されています。3ヶ月に1回介護相談員の訪問を受け、利用者の思い等を聞いて頂き、気付き等報告を受けサービス向上につなげられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを努めているが、事故防止(転倒)のためセンサーマットを使用している方はいる。家族の方にはきちんと説明、報告をしている。	ユニット会議で定期的に身体拘束廃止委員会を開催されています。また、身体拘束をしないケア、人権についても話し話し会われ職員にも周知されています。センサーマット使用の場合には、手順に則り同意や記録もしっかりと実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスや職員会議などで気になるような事があれば職員間で声掛けやケアの方法について検討し虐待が起こらないように努めている。	職員会議やケアカンファレンスで、身体状況や様子が気になる利用者の対応等、職員間で声掛けやケア方法について検討され、虐待が見過ごされる事がないよう注意をし防止に努めておられます。	虐待防止廃止委員会については、身体拘束廃止委員会と同時開催で結構ですが、議事録については各々作成される事を望みます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はこの関連法や制度を利用する方がいない為活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書による説明や見学を行った上入居申し込みを受け付けている。家族の方からの要望や疑問、問い合わせに対しては丁寧な対応や説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方とはコミュニケーションを図り要望等あれば検討し、家族の方には来訪時に意見を直接伺ったり他職員にも情報を共有して日々のケアに反映できるようにしている。	コロナの状況を確認しつつ、現在は面会を中止されています。利用者の方とは日頃よりコミュニケーションを図るようにされています。家族には面会時直接伺ったり、ケアプラン更新や変更時に意見、要望を伺われます。家族にはかんの里通信に担当職員がコメントを(行事、生活様子等)入れ郵送し、日頃の様子をお伝えされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に管理者が参加された際には、意見する場面を作り目標の設定や反省、ケアの検討を話し合い日々のケアに反映出来るようにしている。	施設長、管理者も参加してのユニット会議が毎月開催され、月目標の設定、振り返りやケアの在り方について意見交換が行われています。日常的に個別で意見提案も聞き業務に反映させておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には、熟練職員が指導にあたりケアの向上を図っている。又、個々に役割を分担し、職員がやりがいの持てる職場環境に努めている。	職員の希望やワークライフバランスを考慮したシフトが組まれています。今年度は給料改定による昇給は行なわれました。職員ひとりひとりに役割りを分担する事でやりがいと責任化が持てる職場作りに取り組んでおられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合った研修を受けられるようにしており、スキルアップに繋げている。来年度は、オンデマンドによる施設内研修を実施する計画を立てている。	コロナ対策の為、外部講師を招いての内部研修や外部研修への参加が厳しい状況ですが、職員一人ひとりに合ったWEB等の外部研修参加や内部での勉強会が行なわれています。今後はオンデマンドの内部研修導入も検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナウイルスの為同業者との交流はできていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者の情報収集の際、一人一人の性格を把握し、常に何気ない会話をするよう心掛け職員の方から不安や思いを引き出せるよう努め信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始前より、どのような問題点を抱えているのかを把握し、要望等があれば言いやすい関係作りに努めている。直接、意見交換ができない場合は電話やメールで連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどのように生活したいのか、どのようになりたいのかを把握し必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活履歴を把握し、本人の思いに寄り添いながら支援している。利用者の方に出来る範囲でお手伝いをして頂いている。掃除、洗濯物量みや調理の際使用する食材を切って頂いたり、台所に立つ事が難しい利用者の方にはリビングにて座って盛り付けを手伝って頂けたりするなどし工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの為面会にも限界があったが玄関先で会われたり、電話で話される機会を大事にして頂いた。家族の方には来訪の際、日常の様子を伝え利用者が安心して過ごせるよう一緒に考え意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診をし繋がりを大切にしている。家族や知人の方へ暑中見舞いや年賀状、電話での連絡のやり取りを積極的にしている。	コロナ禍と言う事もあり、外出が難しい状況です。車から下りる事難しいですが、ドライブで自宅付近や墓参りに希望により実施され喜ばれています。かかりつけ医受診時に馴染みの方と合われる方もあります。家族や知人の方に暑中見舞いや年賀状の送付や電話でのやり取りは積極的に行われ楽しみとなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や性格等を把握しトラブルにならないよう職員が仲介し交流が継続できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームで看取りをした方の墓参りを入居者と一緒に三回忌まで行っていた。入院により退居された方に関してはコロナウィルスの為面会が出来なかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方とのコミュニケーションを多くとり、家族の方からも情報を得て意向の把握に努めている。意思表示が難しい方には、日々の関わりの中で表情や態度、性格等から思いを汲み取るよう努めている。	一人ひとりの気持ちを聞く、変化があればそのときの言葉などを記録され思いや意向を把握されています。日常の関わりから思いや表情などに気をつけ記録に残し職員間で共有され本人本位の暮らし方に努められます。困難な方には家族から入所前の生活歴等を伺われ意向を検討されています。定期的カンファレンスを開催され見直しを行いケアプランに反映されます。	思い・意向・希望より利用者の生きがいに繋げていかれると良いと思います
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のこれまでのサービス利用の経過を把握し、利用者の病歴や生活歴も含め理解を深めている。本人の気持ちを重視しできる限り生活環境が大きく変わらないよう配慮に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態に合わせた生活リズムになるよう心掛けている。タブレット記録により、利用者一人一人の心身状態や日常の過ごし方を速やかに共有出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度のケアカンファレンスで見直しをして、課題があれば検討している。ケアカンファレンス時ではなくても状態の変化等あれば随時話し合い見直しを行っている。	ケアプランに沿ってケアを実施できているか毎日確認されています。3ヶ月に1回計画作成、担当職員で評価・見直しを行いケアプランの継続・変更されます。ケアプランの見直し時期には家族とも話し合いプランに活かしておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット記録に日中、夜間の様子で変わった事があれば記録するようにしている。必要な情報が一目で分かるようになっており情報の共有が速やかに行えている。	タブレットで申し送りや日々の記録を行われています。タブレット記録により必要な記録や情報が早く分かり職員の共有が速やかに行えています。タブレット使用を活かしケアの実践、共有内容からケアプランの評価・見直しがスムーズに行うことができます。以前の申し送りノートも活用されています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない事なく本人や家族の要望に出来る限り応えられるよう努めている。病院の送迎など家族の方が難しいところはグループホームで行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴や家族との関係、行きつけの場所などを知るよう利用者にとっての地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を継続している利用者もおられる。必要であれば病院へ付き添いをしたり、電話で報告をするなど利用者や家族が共に安心できる体制になっている。	利用者・家族等が希望するかかりつけ医を継続して頂かれています。かかりつけ医が受診の場合は、ホームからの情報提供書を持参頂き家族による同行受診を基本とされており、受診後は家族より報告を受けておられます。協力医等往診の場合には結果等を家族にお知らせされます。協力医は夜間、急変時に対応頂けます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調に変化があった時は、きずなユニットの看護師や小規模看護師に連絡、相談をし随時適切な指示や判断を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるよう詳細な看護サマリーを病院に提供している。退院前には、カンファレンスを開いて頂き、情報提供をしてもらい退院後のケアに繋げている。	利用者が入院される時は安心して治療が行えるようホームでの様子を情報提供が行なわれます。退院時にはカンファレンスや電話連絡で情報提供して頂き、退院後のケアに繋がられています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居開始時から看取りについて説明し相互理解を結んでいる。主治医の意見を傾聴しながら家族の思いに変化がある都度聞くようにしグループホームで出来る方法を検討し家族に伝えていた。	契約時に看取り指針を家族に説明され同意を得ておられます。体制等が整えば看取り対応されませ。終末期が近づいてきた場合には、主治医、ホーム、家族で話し合い、家族の意向を考慮した終末期の対応が行なわれます。	看取り研修や勉強会を行われる事も良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡の仕方は分かり易く作成してある。救急法の研修を行っているが、具体的な応急処置は看護師の指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者や職員が安全に避難できるよう避難訓練を年2回行っている。水害時の避難場所の検討も必要だった。	年2回避難訓練避難確保計画に基づく避難訓練を小規模多機能事業所と合同で実施しておられ、連絡網の確認も行われました。また、水害避難確保計画が策定されていますが、避難場所の再検討が必要な状況です。備蓄品も準備されています。	事業継続計画(BCP)を策定され自然災害等でも業務が継続できる体制作りに取り組まれる事に望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げており、尊厳の保証やプライバシーの確保はケアするにあたり常に意識している。トイレ誘導時、更衣時などは特に声掛けに注意を払うようにしている。	「尊厳」を理念に掲げ、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した気を心掛けておられます。日頃より声掛けにも気を付けておられ、職員間でも話し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けを心掛けておられます。特にトイレ誘導時や更衣時等の声掛けに配慮されています。入浴介助は同姓介助の方もおられプライバシーの確保に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションの中で気軽に希望を話して下さる方もおられる。意思表示が難しい利用者に対しては本人主体になるように、日々の利用者との関わりの中でヒントを得るよう心掛けて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員側のペースになっているところはあるように思う。本人がしたい事を希望された際にはできるだけ希望に添えるよう努めている。活動を促す一方、自由な時間も設けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣類の入れ替えを行っている。着替えの際には本人に衣類を選んで頂いたり、昔から化粧しておられた方には行事の時に口紅を塗って参加して頂いている。髪が伸びたら訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされている利用者も多く、好みを伺ったり、見た目でも楽しんで頂けるよう食材にも工夫をしている。魚嫌いの方がおられ主菜が魚メニュー時は別メニューに変更して提供している。現在は一緒に準備できる方が減っているが、その中でも出来る事(米とぎ、野菜切り、盛り付け)をして頂いている。	利用者は食事を楽しみにされており、見た目でも楽しめるよう食材にも工夫をされています。好みを伺っているが嫌いなメニューのときは別メニューに変更し提供されています。食事の準備や片付け等が可能な利用者は職員と一緒に行われています。介助が必要な方は本人のペースで食事ができるよう支援を行われています。誕生会や行事食、おやつ作りを楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取では、食前や食事の時間、喫茶時にしっかりと水分を摂って頂いている。飲みにくい方には、好みに合わせて飲み物を変更し摂取して頂いている。食事は、個人の状態に合わせた食事量や形態にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアをして頂いている。洗い直しが必要な方には介助に入ったり、自歯のある方には特に歯の状態を観察するようにしている。義歯は、毎夜間洗浄液に浸け消毒し衛生にも気を付けている。	毎食後、利用者全員口腔ケアとして、歯磨き、状態観察を行われています。利用者の状況によっては仕上げ磨き等に支援が行なわれています。の清潔保持を行われています。義歯は毎夜間洗浄液に浸け消毒をし衛生に気を付けておられます。不具合があれば家族に連絡されます。歯科受診は家族が行われます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄して頂けるよう利用者ごとの排泄パターンからトイレ誘導を行っている。衣類への汚染がないよう居室担当者を中心にパッドの種類の検討をしている。	できる限りトイレで排泄が継続できるよう利用者毎の排泄パターンから声掛け、トイレ誘導を行われ自立に向けた支援を行われています。衣類への汚染がないよう居室担当を中心にパッド等の種類の検討が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物にオリゴ糖や牛乳等を入れて工夫をしており飲水への働きかけは根気強く行っている。運動では、数名の方が廊下を往復をし歩いて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はしているが、出来る限り希望の時間帯に入れるように努めている。一方で、普通浴槽の為、二人介助で入浴して頂く方は昼間に入る事しかできなかったり、二人介助も出来ない方は冬季でもシャワー浴になっている。	入浴日は設定されていますが、出来る限り利用者の希望する時間に入浴できるよう努めておられます。週2回～3回、日中、夜間で入浴が行われています。脱衣所の温度管理、手すりやシャワーチェアなど福祉用具の活用により安心、安全に入浴支援が行われています。ゆず湯や菖蒲湯も行われ入浴の楽しみとなっています。普通浴槽の為、二人介助ができない方は冬季もシャワー浴で対応されます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣、その日の体調に合わせて休息や午睡をして頂いている。居室内は、温度、調光にも配慮し快眠につなげている。集団行動に捉われず、一人一人のペースを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はタブレット記録内に掲載されており職員が見やすいよう、目的や副作用をいつでも確認する事が出来る。状態観察をしっかりと行う事で症状の変化に気を配っている。	職員が確認しやすい様にタブレット記録内に薬の処方注意事項、目的、副作用、用法や用量等を掲載し、職員がいつでも確認出来るようしておられます。薬の変更や用量が変わった場合には、利用者の状態観察に努めておられます。変化があれば記録を行ない、かかりつけ医に報告し対応しておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者との会話から要望を聞いたり、個々に出来る事や興味のある事を職員が見出せるよう日々努めている。コロナ禍になってからは、ドライブなどでの「気分転換が図れるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、その日の希望とはいかないが、天気と職員の状況に応じてドライブに出掛けている。墓参りを希望される方がおられ墓参りをする機会を作る事ができた。	コロナ対策の為、日常的な外出も難しい状況ですが、利用者の希望に沿って自宅近くへのドライブ等が行なわれています。天気の良い日にはホーム周辺の散歩を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方には本人にして頂いているがコロナ禍の為外出できず使用する機会がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があれば自由に掛けて頂いている。遠くにおられる家族には、年賀状や暑中見舞いを出し交流を持って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブル周りに、ソファーや和ダンスなどを置き、ゆっくりと過ごせるような空間作りをしている。季節を感じて頂けるよう自作の壁画はその月の物などを飾っている。温度や調光にも気を配り環境整備している。	リビングのテーブル周りにソファーや和ダンス等を置きゆっくりとくつろげるような空間作りが行なわれています。季節を感じられるよう季節の絵や自作の塗り絵等飾ってあります。エアコンの温度、湿度の調整や換気にも気を付け居心地よく過ごせるよう気を付けておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席では気の合った利用者同士で座れるように配慮している。一人になりたい方がおられる際は、ソファーに座って頂き自由な居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室担当を決め責任を持って整理整頓を心掛けている。壁に家族の写真やメッセージカード等を飾ったり、使い慣れた物を持ち込んで頂き愛着のある物を居室に置く事で居心地の良い空間を作るようにしている。	自宅に近い生活環境となる様、自宅で使い慣れた物や家族の写真やメッセージカードを飾られています。本人が心地よく過ごせるよう居室担当と一緒に整理整頓が行なわれています。ベッドの位置も利用者の動線に合せ位置を変更されます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物で、安全に過ごして頂けるようにしている。廊下には手摺りがあり独歩の方はいつでも掴めるようになっている。今出来る事を継続できるように環境の整備を整えている。		